

第1回 橋本市都市計画審議会専門委員会及び
橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会 議事録(抜粋)

会議名称	第1回 橋本市都市計画審議会専門委員会及び橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会	
日時	令和2年10月29日(木) 午後2時～	
場所	橋本市民会館 1階 ギャラリー	
出席者	委員 (敬称略)	<p>○橋本市都市計画審議会専門委員 濱田 學昭 寺本 伸行 平家 利也 乾 幸八 杉本 俊彦 杉村 春美</p> <p>○橋本市都市計画マスタープラン策定検討委員会 濱田 學昭 葛原 芳秀 西山 恵三 堀川 憲一 池田 和夫 大原 康平 向井 景子 栄迫 仁志 武田 昌也</p> <p style="text-align: right;">【出席委員 14名】</p>
公開状況	公開	
傍聴者	なし	
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 市長挨拶 3. 委員紹介 4. 委員長選任 5. 協議事項 橋本市都市計画マスタープランの策定について 6. その他 7. 閉 会 	
資料	橋本市都市計画マスタープラン策定方針(案)	

○委員長選任

委員長には、濱田 學昭委員が選任されました。

○委員長挨拶

前回のマスタープラン策定の際も委員長を務めさせていただいたが、残念ながら計画のとおりにはまちづくりはなかなか進んでいない。

まちづくりはそこに暮らす人々に関心を持ってもらうことが非常に大事であり、一人ひとりにこれから橋本市を全体としてどう育てていったらいいのかということを考えてもらえるようにしていきたいと思います。

○協議事項について

都市計画マスタープラン策定業務委託業者である国際航業より資料に基づき、今後の都市計画マスタープラン策定の構成案及びスケジュール案等について説明。

その後、委員各位を交え意見交換を行いました。

《意見等》

- ・今回、マスタープランを策定していくにあたって、以前策定した頃から社会情勢や橋本市の状況も変化しているため、そこをまず調べなければならない。前回のマスタープランで決めた計画がどれだけ実現できたのかといったチェックも必要。
- ・まちの魅力、すなわち橋本市の価値を見つける、考えていく必要がある。これは橋本市の中だけで考えるものではなく、もっと広い範囲、大阪や奈良なども踏まえたなかでの橋本市の立ち位置がこれからどういったものであるべきかという視点から考えていく必要がある。
- ・マスタープランの中で、全ての分野に手をつけることは出来ないので、テーマを絞ってどこを重点的に進めていくのかを考えていく必要がある。
- ・財政的に余裕がないのは理解しているし、効率化や事業の取捨選択も必要なこと。ただ、そもそもどういった意図をもって始めた事業なのか、単純な合理化だけを突き詰めて考えていい事業なのかの根本を見つめなおしていくことも大事。
- ・京奈和自動車道が整備されたことはありがたいことだが、橋本市は通過点になってしまっている。そうならないよう、インターチェンジを降りる動機付け、理由づくりをやっていく。地元の人たちと力を合わせて見応えのある景色や体験観光ができる場所を作る。そうすることで、地元の人たち自身にもまちへの愛着を持ってもらえる。
- ・今、民間がまちを作る時代になっている。橋本市としても、協力できる民間企業などがあれば積極的にタッグを組める仕組み作りを。
- ・作った計画をいかに実行していくか、やりきっていくのかという部分を考えていく必要がある。

- ・限られた資源の中、今後人口が減ることを前提としたまちづくり、特色づくりを。
- ・自助、共助が今よくうたわれているが、これは勝手にやれではない。法や条例のような後押し、手助けできる仕組みを作っておかないといけない。その手助けを行うことをマスタープランなどで示す。
- ・アンケートを実施しても、毎回高齢者に回答者が偏りがちになり、若い人の意見がうまく反映できないことも多いので、いつもどおりのアンケートは実施せず、若い人の意見なども直接聞ける場としてタウンミーティングのようなものを実施したい。また、SNSなども活用して意見を述べる、まちづくりに参加する意欲を高めていけるようにしたい。
- ・タウンミーティングや若い人の参画ということについて、今オンライン会議などもだいぶ受け入れられてきているので、ミーティングの模様を中継するなどでもできるのでは。
- ・高齢化が進んでいるということは以前からも言われていることだが、高齢者にやりがいや仕事をしてもらい、その力を利用することで高齢化を遅らせるというような意識で取り組みも行われている。
- ・高齢者の健康寿命を延ばすという意味でも、まちあるきをしたい場所を作ることは大事。医療費の抑制にもつながる。
- ・高齢化に伴って、今の農業、商業の後継者問題も深刻。守っていくべき産業が途絶えてしまう。
- ・マスタープランをせっかく作ったとしても、財政難で難しい、などと絵にかいた餅にならないようにしっかりとした出口を。
- ・橋本市に今魅力が無いというのであれば新しく作っていく、そういう意識も必要では。少子化に対して出産助成金を思い切って出すなども。
- ・農家はなかなか商売として成り立たせるまでが難しく、新しいなり手がいない。そういった経営的な部分での課題などもある。
- ・街づくりという観点からも子育てという観点からも、図書館の充実というのは大事ではないかと思う。
- ・地場産業について技術者、なり手が集まってくれるよう、魅力的に映るアピールを。
- ・価値は作った後、アピールして消費者に届かなければ意味がない。
- ・遠い未来を見据えての計画ももちろん大事だが、それと合わせて、今の人たちの目にとめてもらえるような工夫、メディアとのコラボであったりといった情報発信も重要では。
- ・今後の大災害に備えた避難所の数といったハード面、また情報共有などのソフト面の充実を。市民の安心・安全を守ることを考えるのもマスタープランである。
- ・市内の観光について、点在する場所を有機的につなげることでもっと新しい価値を作ることができると思う。
- ・橋本市には上位計画として長期総合計画が存在する。それも近々見直しになっていく。そこを整合性をとった中で、少子高齢化という難しい問題に向き合っていかなければならない。